

走るノート

岸田國士

青空文庫

四十年ぶり、郷里を訪れたいといふ母の望を叶へる好機会である。私は、講演旅行の勧めに応じた。それで、いよいよ出発といふ段取りになつて、家に病人ができ、母は病人を置いて家を明けることを氣遣ひ、私もそれは仕方がないこととして、一方、講演の約束を今更破ることもできないので、不本意ながら、まあ、若葉は到るところにあらうといふぐらゐの氣持で旅に出た。

食堂車の窓から、朝の関ヶ原を——あの山の影と茶畑の色彩とを貪りながめながら、私はいい旅をしたと思つた。

が、ジュネエヴとやらに向ふ総督の一行と、それに何か関係の

あるらしい連中が同じ汽車に乗りこんでゐて、政治的といふか、官吏的といふか、一種無作法な騒音が、夜中、屢々私の夢を破つたことは事実だ。浜松あたりであつたか、かの鯛飯を購ふや否やの問題が、潜水艦の噸数比例を決する如く論議された。

大阪は単色の大都会である。といへば、何を今頃寝とぼけたことを云ふんだ、と思ふ人があるかもしれないが、私は寝とぼけてはゐないのである。大阪は実に大都会らしき華やかさと陰惨さとを、同時にあらゆるもののうちに兼ね備へ、大都会らしき落ち着きと慌しさとを、程よく織り交ぜ、大都会らしき新しさと旧さとを、巧に同じものの上に調合した又と類のない都市のやうに思は

れた。

東京には、どこことなく「昨日」と「明日」とが対立してゐる。大阪には「今日」があるばかりである。それは生活そのままの相である。いや、誰がなんと云はうと、「今日」は生活の全部だ。そして生活は単色だ。

大阪は、一つの大きな顔だ。瞬きをしない顔だ。鼻の孔を一ぱいにひろげた顔だ。

阪神急行電車、西宮北口といふ停留場は、私に不思議な興味を感じさせた。先づ、あの線路の交錯は、西洋人が書いた片仮名である。そして、あの風車のやうなプラットフオオム！

T氏の案内で宝塚ホテルに宿を取つた。

日光は南欧のやうに豊かだ。——私は、そこで、ふとピレネエの春を思ひ出した。

ホテルのボオイが白足袋をはいてゐる。

四階の窓は、爽かな展望をもつてゐる。

殊にあの、河岸に沿ふて建てられた三つの劇場は、T氏の説明によつて、私の好奇心をそそつた。

私の空想は、限りなく翼をひろげる。

演劇のエルサレム！ 私は巡礼のやうに敬虔な眼をあげて、夕

暮の星を仰いだ。

私は幸にして、まだ少女歌劇といふものを見たことがないのである。そして、ここでもまた見ないつもりである。

中劇場国民座の舞台上、私の『百三十二番地の貸家』が演ぜられてゐる。

見物は空気にひとしい。

舞台では、たしかに、三つ四つの火が燃えてゐる。私は慰められた。

小劇場はヴェエトオヴエン祭の管絃楽。

聴衆はさすがに耳を忘れて来てゐない。

この一堂は、恐らく、神戸——大阪を底辺とする三角形の頂点だ。

翌日、大阪朝日の講堂で、フランス現代劇の新傾向を論じたのは私だ。馬鹿なことをしたものだ。

帽子をかぶつてゐる諸君よ、向うを向いてゐ給へ。

「退屈」は音を出すものだ。私は、その音を大阪と神戸で聞いた。京都のタクシイ、千鳥足。

都ホテルのバルコニーで、何々婦人会がそつ齒を並べ、何条通りかのカフェエで、高等学校の生徒がプロレタリア文学を論じて

ゐた。

そして、私は、そのホテルで昼食をすませ、そのカフェで、主賓らしく納まつてゐたのである。Y氏の如才なき干渉がなかつたら、私はどこまで行つたらう。

公会堂は、男が右、女が左、満堂の聴衆は、紅白二流の旗の如く演壇の前に棚曳いてゐた。

K氏が現はれると白い旗がひらめき、S氏が現はれると赤い旗がひらめいた。

旧都の夜にふさはしい静かなまなざしを感じながら、私は空腹とたたかつた。

朝、十一時、瓢亭の庭の池に、紅椿が一輪、なまめかしく浮いてゐた。

なんて、嘘かもしれないさ。

神戸では、義弟が、A丸に乗り込む日である。

テエプが涙で切れたら、それは見ものに違ひない。同行の某大尉が、細君に最後の小言をあびせかけ、私は眼をつぶつて、地中海の波の色を思ひ浮べた。

青空文庫情報

底本：「岸田國士全集20」岩波書店

1990（平成2）年3月8日発行

底本の親本：「時・処・人」人文書院

1936（昭和11）年11月15日発行

初出：「サンデー毎日 第六年第二十七号（夏季特別号）」

1927（昭和2）年6月15日発行

※底本は、物を数える際や地名などに用いる「ヶ」（区点番号5-86）を、大振りにつくっています。

入力・tatsuki

校正：門田裕志、小林繁雄

2006年3月25日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

走るノート

岸田國士

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>